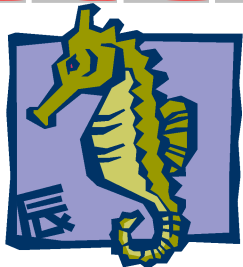




No.480
2024年
1月10日
(水)

1月号
(睦月)
文責：瀧口

謹賀新年



本年も「新見市特別支援教育推進センター」と「ことばの教室」をよろしくお願ひいたします。令和5年度も残すところ10回前後の指導となりました。3月の指導終了を目指して頑張るKちゃん(サ行の練習中)は、クリスマス会に妹と参加しました。ゲーム中もサ行の発音に気をつけて話し、妹の「サ」の発音がちがっていると「べろはここよ。『サ!』言ってみて。」と自分の口の中を見せる様子が見られました。工作がうまくできなくてふててしまった妹を再び活動に上手に誘う姿もあり、「妹と一緒に楽しむために姉としてリードする」「正しい音で話す」など意識せず自然に課題としていることに感心しました。Kちゃんはきっと今年度で指導を終了できることと思います。小学校卒業とともに指導を終了するお子さんもいます。短い指導時間を大事に、子どもたちに自信をもたせて送り出せるよう、がんばっていきます。

「忘れっぽさ」とワーキングメモリ [参考：発達教育 2024, 1月号 中京大学 大井雄平]

「忘れ物」と言えば、子どもの頃にありふれてみられる失敗です。特にそれが気になる子ども達は、忘れ物だけでなく指示を忘れる、課題を最後まで進められないことなどにより、何度も叱られ、自信と意欲をなくしてしまいがちです。ここで大きく関係する『ワーキングメモリ』は、会話や読書、学習を続けるためにも大切な働きをしています。

- *ワーキングメモリとは…「限られた量の情報を少しの間だけ記憶として保っておく記憶のこと」
- ①容量に個人差がある。制約があって、一度に多くの情報を保つことはできない。
 - ②時間が経過すると薄れる。他のことに注意が逸れると失われる。

読書(物語文)を例にすると・・・

ワーキングメモリ

「すでに読んだ内容」を覚えておきながら、読み進めていく。

- ①話に関係する部分を意識して読む【情報選択】
- ②出来事の時系列を考える【情報操作】
- ③話の場面を転換する【思考の切り替え】
- ④次の予定の時刻を気にしながら読む【注意の分割】



言語性
ワーキングメモリ
単語や文章を覚えておく

視空間性
ワーキングメモリ
登場人物の視覚的なイメージを覚えておく

内容を理解するためには、①②③をすることが求められる。それを支えるのが、ワーキングメモリであり、読み進めて得た内容を統合することで、文章全体を正しく理解することができる。

ワーキングメモリには個人差があり、障害の有無に限るものではありません。また、ワーキングメモリのトレーニングはそれ単独で、問題が解決できるものではありません。

1. 負荷を考慮する
 - ・指示は短くコンパクトに
 - ・必要に応じて指示をくり返す
2. 覚えやすい情報を与える
 - ・言語情報と視覚情報の両方を与える
 - ・知っていることと結びつけた具体的な説明で覚えやすく、思い出しやすくなる
3. 進捗を見守り、調整する
 - ・活動途中で声かけをする
 - ・課題目標の確認をする
4. 外部記憶を活用する
 - ・その場限りの情報は、プリント、メモ、タブレットを活用する

ワーキングメモリは「今、なにをすべきか」という課題目標を保つとともに「思い出す」役割を担っています。環境を整え、子ども達が自信をなくすことのないような支援をしていきたいと思ひます。

きょうという日

室生犀星

時計でも
十二時を打つとき
おしまいの鐘をよくきくと
とても 大きく打つ
きょうのおわかれにね
きょうが
もう帰って来ないために
きょうが地球の上に
もうなくなり
ほかの無くなった日に
まぎれ込んで
なんでもない日になって
行くからだ
ぼうぼう
茫々何千年の歳月に
連れこまれるのだ
きょうという日
そんな日があったかしらと
どんなにきょうが
華かな日であっても
人びとはそう言っ
わすれて行く
きょうの去るのを
停めることが出来ない
きょう一日だけでも
よく生きなければならぬ